

## 産業建設常任委員会視察報告書

令和7年11月9日  
産業建設常任委員会  
委員長 竹本 寛

令和7年10月27日に実施した産業建設常任委員会視察につきまして、下記の通り報告いたします。

### ○10月27日(月) 岡山県倉敷市 公園の多機能化について

自然や地形を活かした多世代が集う都市型公園として、旧山陽ハイツ跡地を利用して整備した「倉敷ふれあいの丘公園」は、頂上部の見晴らし広場へ県内最大級の大型複合遊具等を整備し、中央部のイベント広場や交流棟と一体的に利用する事が可能な、あらゆる面で機能的な役割を持つ公園であるとの説明を受けた。

また、管理運営は指定管理制度により、公園と交流棟を一体的に管理しており、今後は指定管理者の自主事業としてのイベント等も予定されているとの事であった。

公園を整備するにあたり、周辺道路の整備や渋滞対策についても検討されており、入り口交差点の改良やヘアピンカーブ部分の拡幅、ガードレール等の安全施設の整備等を行っていた。特に近隣住民への影響を考慮し、カーナビ設定時に生活道路を案内しないようにカーナビ業者へ経路修正を依頼していた事には驚いた。

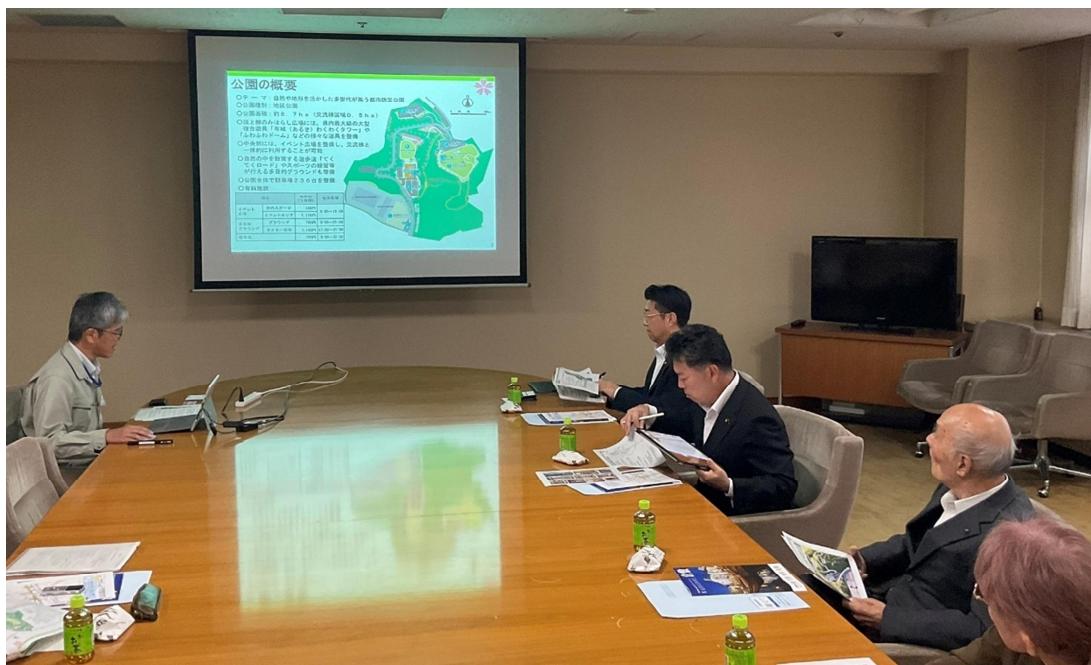
災害発生時には半径1km、約1500名の一時的な避難場所としての機能も持ち合わせており、耐震性貯水槽やマンホールトイレ等が整備・設置されていた。約750台分の駐車場やヘリポートとしての利用も可能との事だった。

浅口市においても、丸山公園の改修や金光駅西公園の整備が計画されている。倉敷市では「防災をメインとした公園ではなく、あくまでもメインの公園に防災機能がぶら下がっている」との方針で整備を進めており、その事で

防災関係の補助金等が使用できなかったようだが、自主財源であっても方針に則り、計画を進めた覚悟は見習わなければならないと感じた。

参加した委員からも同様の意見等があった他、「周辺道路の整備や公園としての機能面への方針についての考え方等を参考にすべき」、「公園としてのコンセプトを市民へ示すべきでは」等の意見があった。また、同行した当市執行部からは「コンセプトがしっかりとしており素晴らしい公園であった」、「当該公園の設計は当市が委託している設計会社と同じであるため、良い公園となる事が期待できる」との意見があった。

倉敷市の整備方針をそのまま浅口市に組み入れる事は財源や人口規模等からも困難であるが、市の特徴なども考慮し、安心安全のまちづくりに紐づく開発整備が必要ではないかと考える。



#### ○岡山県総社市 移住コーディネーターの取組について

地域の活性化に必要不可欠な移住・定住への取組を強化すべく、今年度か

ら専属の移住コーディネーターを配置し、移住者数の増加に取り組んでいた。移住希望者へのフェアやPRに加え、移住者コミュニティの開設や市独自のオンライン移住イベントの開催等の業務を行っているとの事であった。

専属の移住コーディネーターを配置する事で移住希望者の細かい問い合わせや相談等に対応がしやすくなるのは想像できるが、その対応をするために市内でも生活スタイルが異なるエリア（中心部等の市街地では買い物・病院・学校等の利便性。郊外部では自然豊かなで農業等もできる生活）の特徴を掴むために、自身も様々なイベントや集会等に参加し、常に情報収集を行っており、移住希望者の目線に立った活動ができる環境整備の構築に取り組んでいた。

庁舎内でも空き家等をはじめとする住居の確保や子どもの教育環境、就労や福祉面等、移住者一人ひとりに対する連携体制を強化していた。これは移住希望者にとっては大変重要な事であり、専属コーディネーターを配置する大きなメリットとなる。

コーディネーターを配置して初年度であるが、今後は市の認知度向上のため個別移住相談会や移住者インタビューの作成や移住者交流や地域との連携を一層強化していきたいとの事であった。

参加した委員からは「兼務職員では異動等により、取組みが停滞する事が予想されるが、専属コーディネーターを配置する事で長期にわたる取組となり、施策としての効果が高まると考えられる」、「専属であるため、市民との繋がりを構築でき、移住定住というテーマに対して継続した施策を展開できることが大きい」等の意見があった。また、同行した当市執行部からは「専属コーディネーターとあるが、移住定住においてオールラウンドな活動を展開していた」、「部署単独ではなく、他部署と連携して取り組んでいると感じた」等の意見があった。

浅口市においても、空き家の利活用や移住定住の取組は重要な課題であり、市の産業や文化等、商工との連携も重要であるため、様々な課題解決のためにも特定部署の兼務ではなく、専属で移住定住や空き家の利活用にあたるコーディネーターの配置を検討してはどうかと考える。



今回の視察で訪問した倉敷市の多機能公園と総社市の移住コーディネーターの取組は、いずれも浅口市の公園整備計画や空き家対策や移住定住の課題解決に活かせる部分はあると考える。しかしながら、財源や人員不足等、他市と同様の施策は困難かもしれないが、良い面を浅口市に落とし込んで取り組んでいく姿勢が必要であると考える。浅口市として各部署が連携して課題を共有した上での対応・対策を考えなければならない。

以上